

乙 第 号

田村 大和 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	室 繁郎
論文審査担当者	委員	教授	斎藤 能彦
	委員(指導教員)	教授	谷口 繁樹

主論文

Effect of Cardiac Expansion on Postsurgical Pulmonary Resection Recovery

心拡張機能が肺切除後周術期回復に与える影響

Yamato Tamura, Noriyoshi Sawabata, Yoshiyuki Susaki, Takahito Nakamura,
Shigeki Taniguchi.

In Vivo. 2019 Nov-Dec;33(6):1977-1984.

論文審査の要旨

高齢化の進行に伴い、肺癌症例が増加してきており、種々のリスクを持ちつつ肺切除術を受ける症例も多い。また、一見して周術期リスクが低いと見積もられても、術後合併症を来し、管理に難渋することも稀ではない。

本研究では、術前階段昇降試験にて運動耐容能が十分に保持されており、通常は周術期合併症リスクが低いと見積もられる集団（90 症例）に対して、術前に心拡張能の指標である E/e' と周術期の指標との関係を検討した。

E/e' の値により左心室拡張機能を三群に分け比較したところ、 $E/e' > 12$ の群において、術後酸素投与期間、ICU 滞在日数、入院日数が他の群に比べ有意に長かったことを見いだした。

公聴会では、本知見の機序が質問され、拡張能障害症例では、術後肺鬱血が増加することが原因と推察され、肺切除によって肺血管床が急激に減少し、術後の右心室の後負荷の増大による影響が、左心室拡張機能障害を術前から呈する症例では術後に顕在化しやすい可能性を指摘した。また、研究のプロトコールに関して主治医の判断バイアス（術式や術後管理への影響）の可能性を質問されたが、本指標に関しては主治医には認知されておらず、プロトコールの妥当性を示した。肺切除術に伴う血行動態の変化は、臨床的に極めて重大な命題であり、詳細な機序の解明は今後のさらなる検討を期待したい。公聴会での質疑に対しても、的確に答えており、学位に値すると考えられる。

参 考 論 文

1. B 型慢性解離性大動脈瘤の食道穿破に対して緊急下行大動脈置換術および食道抜去術、二期的食道再建を行い救命し得た 1 例
鹿庭善夫、多林伸起、阿部毅寿、廣瀬友亮、田村大和、谷口繁樹
日本血管外科学会 第 29 卷、第 2 号 Page81-85 (2020.04)
2. 慢性大動脈解離により重度の大動脈弁閉鎖不全症をきたした慢性透析患者に対して modified partial aortic root remodeling を施行した 1 例
武村潤一、田村大和、丹羽恒介、鹿庭善夫
心臓 第 51 卷 第 8 号 Page833-838 (2019.08)
3. 重症下肢虚血に対し内視鏡下大伏在静脈採取法を用いて distal bypass を行った一例
平賀 俊、田村大和、武村潤一
脈管学 第 57 卷 第 10 号 Page157-161 (2017.10)
4. Circumferential Acute Type an Aortic Dissection with Intimo-Intimal Intussusception: The Efficacy of Central Aortic Cannulation
Yamashita K, Tabayashi N, Abe T, Hayata Y, Hirose T, Tonomura R, Yokoyama S, Tamura Y, Taniguchi S.
Journal of Clinical Case Reports. 2017;7(11).

5. 膀胱癌精査中に発見された限局性結節性肺アミロイドーシスの1例
安川元章、田村大和、関寿夫
日本臨床外科学会 第77巻 第4号 Page795-798 (2016.04)

6. Carney Complex with Right Ventricular Myxoma following Second Excision of
Left Atrial Myxoma
Tamura Y, Seki T.
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014;20 Suppl:882-884.

7. Late Lower Extremity Ischemia due to Thrombi in an Occluded Graft after
Axillary-Femoral Artery Bypass
Tamura Y, Nishizaki K, Seki T.
Ann Vasc Dis. 2013;6(1):94-97.

8. Reasonable and effective volume reduction of a giant left atrium associated with
mitral valve disease
Tamura Y, Shigeo N, Abe T, Tanguchi S.
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2008 Aug;14(4):252-255.

9. 心臓血管外科術後の頻脈性心房細動に対する landiolol の効果
西崎和彦、畠田和嘉、田村大和、関寿夫
新薬と臨床 第57巻 第3号 Page331-337 (2008.03)

10. Effect of a Novel Histone Deacetylase Inhibitor, N-(2-Aminophenyl) Benzamide on a Reversible Hypertrophy Induced Isoproterenol in In situ Rat Heart
Kitagawa Y, Tamura Y, Shimizu J, Nakajima-Takenaka C, Taniguchi S, Takaki M.
J Pharmacol Sci. 2007 Jun;104(2):167-175.

11. Stanford A 型急性大動脈解離に対する当科での手術成績
吉川義朗、多林伸起、長阪重雄、阿部毅寿、田村大和、早田義宏、畠田和嘉、廣瀬友亮、谷口繁樹
循環器科 第60巻 第6号 Page569-570 (2006.12)

12. Intralobar sequestration presenting as a large intrapulmonary hematoma and massive hemothorax
Tamura Y, Kushibe K, Tojo T, Takahama M, Kimura M, Taniguchi S.
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg. 2006 Oct;54(10):437-439.

13. Ectopic Pancreas in the Anterior Mediastinum
Tamura Y, Takahama M, Kushibe K, Taniguchi S.
Jpn J Thorac Cardiovasc Surg. 2005 Sep;53(9):498-501.

14. Re-do Mitral Valve Replacement Using the Valve-on-valve Technique: A Case Report
Tamura Y, Kawata T, Kameda Y, Taniguchi S.
Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2005 Apr;11(2):125-127.

15. 特発性肺線維症を合併した肺癌手術例における術後合併症
櫛部圭司、木村通孝、高浜誠、廣瀬友亮、田村大和、東条尚、谷口繁樹
胸部外科 第 58 卷 第 1 号 Page26-30 (2005.01)

16. 寛解・増悪を繰り返す中枢神経症状を呈した急性 A 型大動脈解離の 1 例
田村大和、金田幸三、中山芳夫
胸部外科 第 56 卷 第 13 号 Page1123-1125 (2003.12)

17. 慢性透析患者に対する外側大腿回旋動脈を用いた再 CABG
田村大和、沖山光則、津田智弘、當山真人
胸部外科 第 56 卷 第 12 号 Page997-999 (2003.11)

18. 慢性透析患者に対する心臓外科手術に関する検討
田村大和、沖山光則、當山真人
沖縄医学会雑誌 第 40 卷 第 4 号 Page4-6 (2002.05)

19. 慢性透析患者の僧帽弁閉鎖不全症に対する edge to edge repair の 1 治験
田村大和、川田哲嗣、亀田陽一、辻 毅嗣、多林伸起、阿部毅寿、上田高
士、内藤 洋、谷口繁樹
胸部外科 第 54 卷 第 9 号 Page788-790 (2001.08)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに循環・呼吸機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年9月8日

学位審査委員長

呼吸器・血液病態制御医学

教授 室 繁郎

学位審査委員

循環器病態制御医学

教授 齋藤 能彦

学位審査委員(指導教員)

循環・呼吸機能制御医学

教授 谷口 繁樹